

## まだ書きたいことが一杯あるが

テレビを見ていて、きれいな顔だなあ、  
 と思っていたが、声を聞いて、その声が、  
 顔に似合わないので、がっかりした事がある。  
 あれは、本当にムードがつぶれた。

それを思い出したら、急に、  
 今聞こえている美声も、  
 女神の声には聞こえなくなった。

太っちょの白ブタのおばさんの声に聞こえた。  
 しかし、それでもいい声だ。  
 太っているからこそ、体力あるからこそ、  
 あれだけの透きとおった、美しい声が出るのだろう。

三時二十二分のバス。

急行の次の大阪行きの各駅停車、珍しい。  
 今日もおの子に会えない。

「節分は今日。」だって。  
 さっぱりわからん。  
 あまり縁がないから。

昔は 家族全員で 豆をまいた。  
 おばあちゃんが 大豆をいっばい買って来て  
 鍋にいっばい煎っているのを見ながら、  
 京太と僕は、そばで、わいわい言っていた。  
 豆のにおいが プーンとして  
 いいにおいだった。